

「オフ会」に関する社会学的考察

コース 社会学専攻氏名 中多昭太学籍番号 119268指導教員 串田秀也キーワード(和文) インターネット 社会関係資本 オフ会 コミュニティ

本論文は「オフ会」という現象に注目することで、現代日本の人と人との繋がり的一端を明らかにするものである。「オフ会」とは、インターネットを通じて知り合った、同じオンライン「コミュニティ」の利用者たちが、共通の目的を持って現実世界に集う現象である。

本論文の具体的な分析課題は以下の2つである。第1は、「オフ会」に参加する人たちが、参加までにどのような過程を経ているのか明らかにすることである。第2は、「オフ会」がどのような地位や立場から成り立っているのか、また、それが変化する条件は何かを明らかにすることである。研究方法は参与観察法を用いる。

分析の結果、「オフ会」に参加するプロセスは、3つあることが解明された。「1対1パターン」は、インターネットユーザ同士が1対1で交流を深め、築いた信頼関係から現実世界で会いたいという願望が起きたときに、ごく少人数で「オフ会」を行うパターンである。「マイミク紹介パターン」は、1対1で交流を深めたユーザへの信頼から、趣味を同じくする者が複数人集まる「オフ会」に参加していくパターンである。「単独飛び込みパターン」は、趣味を同じくする者と交流を深めたいという願望から「オフ会」を探し、オンライン上で特別な交流をしていない人ばかりが集う会にも参加していくパターンである。

また、「オフ会」は次のような地位や立場から成り立っていることが分かった。「オフ会」を企画し、ルールを定めて場をコントロールする「リーダー」。「リーダー」の定めたルールに基づいて場の雰囲気を作る「常連」。集団にとっては新たな刺激や活力になる「初参加」。大まかにはこの3種類の立場の参加者で「オフ会」という場は構成されている。その立場は個々人の自由な行動選択によって変化してゆく。

結論として、「オフ会」に注目することで現代日本の人と人とのつながりについて以下のことが明らかになった。「オフ会」に集う人々は、オンライン「コミュニティ」の機能を使いこなし、学校や勤め先、地域コミュニティの中で生活しているだけでは得られない、共通の目的を持った者同士の交友関係を獲得している。「オフ会」という場で構築される人と人とのつながりは、現実社会の階層に捕らわれないものであり、そうしたものが関係していないからこそ、心地の良い関係を築き、人々の現実世界での疲れを癒し、活力を得るはたらきをしている。